活 動 成 果 報 告 書

令和４年度（第２６回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

子どもと関係を築くことが難しい保護者のためのグループ支援

～子どもと大人の関係を良くする CARE プログラム～

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

浦和区役所　保健センター

代表者：岡安　圭子

勤務先：さいたま市浦和区役所

所　属：健康福祉部　保健センター

所在地：〒３３０－００６１

埼玉県さいたま市浦和区常盤６－４－１８

ＴＥＬ：０４８－８２４－３９７１

ＦＡＸ：０４８－８２５－７４０５

◇活動方針

さいたま市は令和 3 年度における転入超過数が全国 1 位であり、特に 0～14 歳の転入超過数は 7 年連続で全国トップである。日々、地区活動をする中で、身近に相談者がなく、育児負担を一人で抱えている保護者が多いと感じている。そのような保護者からの相談を受ける中、子どもと関係を築くことが難しいと感じ、関わり方を学びたいと考えている保護者と出会うことがあるが、浦和区役所保健センターでは、幼児期の子どもとの関わり方について学ぶ事業はない。そこで子どもと関係を築くことが難しいと感じている保護者を対象に、子どもとの絆を深め、温かい親子関係を築き、保護者の精神的な安定を図る効果のある「CARE プログラム」のスキルを用いて支援を実施することにした。また、保護者同士の交流から悩みを共有するグループ支援の方法で実施を計画することとする。

CARE プログラムとは

（参考）CARE（Child-Adult Relationship Enhancement）は、2006 年に米国オハイオ州シンシナティ子ども病院でエビデンスに基づき開発され、子どもとよりよい関係を築く時に大切な養育のスキルを体験的に学ぶことができる、トラウマインフォームドな視点から生まれたペアレンティングプログラム。CARE は治療のためのものではなく、2 歳前後から思春期の子どもとかかわるすべての大人を対象にしている。

◇活動内容

１．目的：子どもと大人の関係を良くする方法を学ぶ

２．講師:CARE ファシリテーター資格を持つさいたま市職員 1 名、講義補助職員 2 名

３．対象者：当センターで継続相談をしている 2 歳以上の子どもをもつ保護者のうち、子どもと関係を築くことが難しいと感じている保護者

４．実施内容：CARE プログラムと地区担当保健師による個別支援と組み合わせて実施した。

（１）実施回数　４回（CARE プログラム３回、　座談会１回）

（２）定員　20 組

（３）支援者　浦和区保健センター保健師、保育ボランティア　等

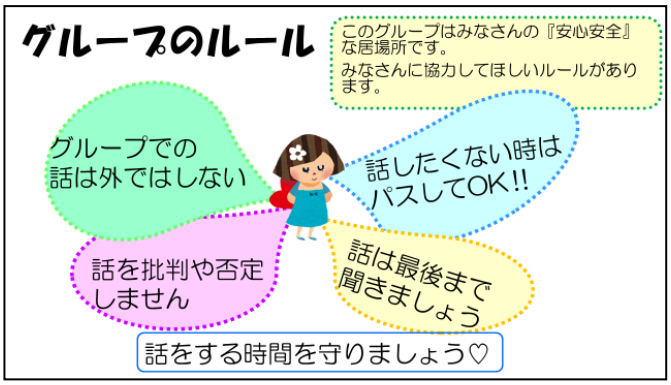
（４）実施場所　浦和区役所保健センター

５．スタッフが心がけたこと

（１）グループのルール（参考１）を参加者に伝え、4 回を通して気軽に話しやすい環境を作る。

（２）プログラム中一人の人として尊重されていることを保護者自身が感じることができるように、参加者が呼んでほしいと希望した名前で受付しプログラム参加中はその名前で呼ぶ。

（参考１）



（参考２）

チラシ

子どもと大人の関係をよくするために
～ＣＡＲＥプログラムの紹介～

子どもとの関係を良くするのはどうしたらいい？

日々の子育てをしていく中で「子育てがどうもうまくいかない・・・。」「どうしてこんなふうに叱っちゃうのかな・・」「子どもとの関係を良くしたい。」などの思いをもつ親御さんは多いかと思います。
短い時間でも子どもとしっかり関わると関係が良くなり、子どもが変うことを聞いてくれるようになることがあります。いくつかポイントを抑えた関わり方をするとより効果的になります。ＣＡＲＥプログラムでは１日５分程度でもポイントを抑えた関わりをしていけば、関係が改善していくと説明されています。そのポイントについて一緒に学んでみませんか。

日程　（全４回）
① 令和４年１０月１４日（金）　②１０月２８日（金）
③１１月１６日（水）　④１１月２５日（金）
時間　１０：００～１１：３０（受付　９：４５～）
内容　・ＣＡＲＥプログラム～子どもと大人の関係を良くするために～
（詳しくはチラシをご参照ください）（１～３回目）
・座談会（４回目）
持ち物　筆記用具
会場　浦和区役所保健センター５階
対象者　就学前のお子さんをお持ちの保護者
定員　２０名
※託児が必要な方はお申し込み時にお問い合わせください
申し込み　地区担当保健師へ事前に申し込みを行ってください

浦和区常盤６－４－１８
電話　０４８－８２４－３９７１
FAX　０４８－８２５－７４０５
地区担当保健師＿＿＿＿＿＿＿＿

６．参加者：実 11 名　延 28 名

７．参加動機：子どもとの関係を築くのが難しいと感じている。具体的には「しかり方が分からない」、「声のかけ方が分からない」、「子どもとのかかわり方を学びたい」、「子育てのヒントが欲しい」。

８．結果

（１）ECBI（アイバーグ子どもの行動評価尺度エクビ）の結果

ECBI の 1 回目、3 回目、4 回目の結果について、表 1, 表 2 に示す。

表 1 より、「強度」は 1 回目平均値が 137.4 点であった。カット値 124 点より高い得点であった。各回の得点差についてみると、保護者 3 番では、1 回目-3 回目で 44 ポイント減少、1 回目-4 回目で 35 ポイント減少、3 回目-4 回目で 9 ポイント増加であった。その他の結果について、表 1 に示す。「問題」については、1 回目平均値が 16.1 であった。

表1　強度 得点

ID	1回目	3回目	4回目	1回目－3回目	1回目－4回目	3回目－4回目
1	141					
2	144					
3	128	84	93	-44	-35	9
4	173		147		-26	
5	133	116	113	-17	-20	-3
6	118		116		-2	
7	123		131		8	
8	111	112	115	1	4	3
9		131	134			3
10	129		134		5	
11	174					
平均値	137.4	110.8	122.9			

表2　問題　得点

ID	1回目	3回目	4回目	1回目－3回目	1回目－4回目	3回目－4回目
1	24					
2	18					
3	17	12	9	-5	-8	-3
4	19		20		1	
5	9	7	6	-2	-3	-1
6	5		1		-4	
7	14		16		2	
8	8	4	6	-4	-2	2
9		32	14			-18
10	18		16		-2	
11	29					
平均値	16.1	13.8	11.0			

（２）事後アンケート結果

（4回目参加者7名及び地区担当がプログラム終了後面接した1名の計8名から回収した。回収率73%）

① 全体を通しての満足度：とても満足・満足 100%　　とても参考になった・参考になった 100%

② グループ形式の講義の満足度：「とても満足」「満足」75%

（他の家庭の話を聞くことができて良かった、率直に話せてよかった、共感してもらえた）

③ 保護者自身の気持ち・考え方：「とても良い変化があった」「良い変化があった」100%

④ 育児不安が軽減したか：軽減した 50%　変化なし 37.5%　強くなった 12.5%

⑤ 保護者自身の子どもとの関わり方：「とても良い変化があった」「良い変化があった」100%

⑥ 子どもに変化があったか：「とてもあった」「あった」を合わせて 88%

⑦ 全体の感想

託児もありゆっくり子どもの事を考える機会がありがたい。気持ちが楽になった。あと数回来たい。学ぶ機会になった。家族背景が似ている方同士でグループワークができると解決策が模索しやすいと思った。

◇活動成果

ECBI 尺度の結果より、1 回目の「強度」は、カットオフ値 124 点より高い得点であった。日本の標準値より高く子どもの行動を問題と感じている保護者であることが明らかになった。1 回目-3 回目、1 回目-4 回目、3 回目-4 回目の点数の差について見てみると、大幅に下がった保護者もいた。「問題」についても、平均値から保護者は養育に困難さを感じていることが示された。また、「問題」得点点数の下がった参加者が半数みられ、中でも大幅に下がった参加者もいた。しかし、得点があがった保護者もおり、その点について、CARE プログラムの特徴である子どもとの関係や絆を深めるための基本的な姿勢として「子どものリードについていく」ということが影響をしていると推測された。CARE を学び、これまで以上に子どもの様子を観察し、子どもに寄り添った関わりをする機会が増え、今まで気が付かなかった子どもの様子を把握し、そのことを問題や困難さと認識した可能性があると考えられた。この結果は保護者が CARE スキルを日常の中で実践していることの現れとも捉えることもできると思われた。

事後アンケートからプログラム参加に対し満足であったこと、グループ支援での教室の満足度が高いこと、プログラムの学びから子どもとの関わりに良い変化があったことが明らかになり、活動の目的は達成できたと考える。また 7 の②からグループ形式の講義は、育児負担の軽減とともに、孤立化・虐待予防の視点からも実施には効果があったと考える。しかし、7 の④から参加後に育児不安が強くなった参加者が 1 名おり、参加者の選定や地区担当の事後フォローが課題となった。また、参加者が本プログラムでの学びを定着させていくためにも、プログラム参加だけでなくその後の個別支援が必要であることが示唆された。

今後の個別支援を通した中長期的な関わりの中で、保護者は CARE のスキルを用いることで子どもとの絆を深め、子どもの問題行動や保護者の育児困難感を改善できると良いと考える。

◇今後の計画

身近に相談者がおらず育児負担を抱えている保護者の支援の一助として、次年度から本事業を事業化することとなった。引き続き今年度 CARE プログラムを受けた参加者への個別支援の継続、次年度の参加者の選定、職場内研修等に努めたい。